

## ♪ 歌声喫茶「ばっは亭」ぶらり訪問記 ♪

日 時 2012年4月11日(水)午後2~3時半

会 場 なぎさニュータウン管理棟小ホール

きっかけは、「ばっは亭」主宰者の田代氏(以下“亭主”)から誘われたことでしたが、伴奏講座の講師の一人で、関東アコの実行委員でもある池田健氏と一緒に筆者もお邪魔して取材させていただきました。

会場は旧江戸川沿いの団地のホールでしたが、当日はあいにくの雨天で、桜が見ごろだっただけにちよっぴり残念でした。それでも明るい会場からは満開の桜と、植え込みの菜の花の鮮やかな黄色がガラス越しに映えていました。

ばっは亭は、毎月第2水曜日の午後2時から1時間半程度、会費200円(コーヒーはお代わり自由)で行っており、区のボランティアセンターの登録団体として助成金を受けているようで。

オープニングに先立って、スタッフの一人である看護師によるストレッチ体操が行なわれ、続いて、今年度のスタッフ紹介と、第3部はスペシャルゲストを迎えてリクエストコーナーにするとの案内があり、早くも期待感で一杯の雰囲気でした。

会場は1時半から開けてお茶と自由なお喋りの時間に当てていることもあって、開会時にはすでに50数名の席は一杯です。テーブルの上には市販の歌集「世界の歌声」



(あらゆる世代の方が一緒に歌えるように)と「手づくり歌集」(参加者の希望を勘案しながら毎月ページを追加している)がセットで用意されています。(上の写真は伴奏する亭主)

歌は、恒例の「ふるさと」から。低めのE♭で歌い始め3番は1音上のFに転調。これにはちよつとびっくりで、指揮も歌のリーダーもなく高齢者も多いように見受けられるのに、まごつくこともなく明るい声が響きます。「さくら」「春が来た」「春の小川」「めだかの学校」「緑のそよ風」「靴が鳴る」「アメフリ」「花のまわりで」「花の街」「花(春のうらの)」などが歌われました。

第1部は季節の童謡や唱歌などから始まって次第に高度な曲に移っていく選曲になっているようですが、曲についての亭主のコメントに皆さんは頷いたり笑ったりしながら歌を楽しんでいるようでした。

例えば、『「緑のそよ風」の歌詞にボールがポンポンとか出てきますね。この曲は昭和21年にNHKで流されたんだけど、戦時中はボールとかストライクとか確か言ってませんでしたよね！それが、戦争が終わってこう



という言葉を使えるようになった喜びが感じられる歌になっています。』といったように曲についてのコメントを織り交ぜながら進みます。

また、歌は「めだかの学校」のような一見簡単そうな曲でも、「そつとのぞいて見てごらん」などの同じ歌詞が繰り返される部分では、強弱に気をつけながら聴きあって歌う様子など印象的でした。

ばっは亭では毎回「歌の背景を訪ねて」と言うコーナーを設けているようですが、この日は「花の街」が取り上げられました。(この曲では、歌の1番を歌った所で1度止めて、予め用意されたプリントをスタッフの一人が朗読しました。それは、空襲によって瓦礫と化した東京の街がこの詞のような花咲く街になって欲しいという夢と希望を託して江間章子を書き上げたものであることや、団伊久磨の作曲で放送されるとたちまち好評を博して、今では日本中で親しまれる歌の一つとなっていることなどの紹介でしたが、続いて亭主から、『私たちは今、毎日“瓦礫”という言葉を目にします。大震災の被災地では瓦礫の引き受け手が少なく復興が思うように進んでいませんが、一日も早く瓦礫が撤去されて、復興して欲しいですね』とコメントがあり「花の街」のイメージが夢のようなものから願いのようなもの変わっていく中で、もう一度1番からしっかりと歌いました。

休憩を挟んで第2部の初めは「うるわし春」(会場を三つのグループに分け輪唱)、そして、2部のテーマ曲になっている「ビリーブ」を歌いました。

ここで、最初にストレッチ体操を指導された看護師が再度登場。『ばっは亭でいつも童謡や唱歌の歌詞をしみじみ味わえて心を洗われる思いで、それを楽しみに関わっています。「ビリーブ」を歌うと何かいつも胸が詰って涙ぐんでしまい、まだ涙が乾いていません』などとちょっと天井を仰ぐような仕草をしながら、「免疫力を上げる」と言うテーマでの健康講話が始まりました。

お話の中で興味深かったのは、『免疫力を低下させる行動として持続的な強いストレス、悲しみ、夜更かし、高齢化、激しい運動、暗い人の傍に同席すること(笑い)があること。これらのうち、ストレス、悲しみ、高齢化などは、生活の中で自分が望まなくてもやってきてしまうものですが、夜更かしとか、激しい運動とか、暗い他人の傍に行かないとか、そういうことは自分で防ぐことができます。

皆さんには免疫力を上げる行為を頑張っていたいただきたいわけですが、「声を出して笑う」ばっは亭でも亭主のお話にユーモアがあって、私たちは楽しくってケラケラ笑います。とっても良いことなんですね。それと運動ですが、頑張っちゃいけない。“ちんたら運動”がいいって言いますね。ちんたら、ゆつくり、のんびり、むしろその方が免疫力が活性化するんだよって。ということで私達も大いにちんたらやろうじゃないですか』(以上さわりだけの紹介で以降省略しますが、健康講話をやるようになって参加者が一段と増えたようです)

続いて第2部の後半は、お口の体操として由紀さおりの「夜明けのスキヤット」から。



『1 番を2 回、ルー、ルー、ル、ルーから始まってラ、ラ、ラ、それからパ、パ、パとはっきり発音して下さい。音程はどうでもいいから』（笑い）そんな調子で進みます。（注：「お口の体操」とは、高齢者の誤嚥性肺炎の原因となる嚥下障害を防止する目的で行なうもので、「パ・タ・カラ」の発音を多く含む曲を意識的に取り上げているようでした）

さらに『ここで1 曲覚えましょう』と、手作り歌集の最終ページに加えられた「希望のささやき」を下の低音部を2 回練習してすぐ本番に。でも、皆さんかなりご存知のようでした。この後「箱根八里」を歌って2 部は修了。ここまでは通常の「ばっは亭」のスタイルで歌いました。

10 分弱の休憩後の第3 部は、今回の目玉となったスペシャルゲスト池田健氏を迎えてのリクエストコーナーで、「カチューシャ」「コロラドの月」「五月のうた」（モーツァルトの「春へのあこがれ」）「早春賦」「学生時代」「アメイジング・グレイス」（初めて聴くようなアコの深い音色に賞賛の声が上がる）。そして「百万本のバラ」「恋はみずいろ」「サントワ・マミー」などで大いに盛り上げました。

また、会場から、ゲストの伴奏で亭主の歌を聴きたいというリクエストがあり、固辞しつつも亭主が選んだのは「椰子の実」。（写真はリクエストに応える田代氏と池田氏）



最後は、再度亭主の伴奏で第3 部のクロージングテーマとなっている「今日の日はさよなら」をみんなで歌い、『次回は連休明けの

5 月9 日、一週間前までにポスターの掲示をします。（毎月のチラシのカットは季節の花



など「四月は桜」で、看護師の作品）また元気でお会いしましょう』という挨拶で修了しました。

時間が大幅に伸び、修了は4 時20 分頃でしたが、皆さん満足した様子で笑顔で会場を後にしていました。

=====

### 「ばっは亭」を取材してみても

定例で始めて4 年3 ヶ月ということでした。「ばっは亭」の“会則”なるものを見せていただきました。

2 項に、「遠く故郷を離れ、ここ（南葛西地域）がふるさどになった人達が、アコーディオンの伴奏で懐かしい歌をうたうことで心身に健康に、楽しく生活し、心豊かに老いていけることを目的とします」

3 項に、「毎回の選曲は、季節の歌を中心に子どもの頃、学校に通っていた頃、大人になって精一杯生きてきた頃、孫を相手にテレビやラジオから耳に入ってきた名曲の数々など、参加者の希望も取り入れながら行ないます」とあります。この会則を読ませていただいて、今日の選曲や会の進行がよりはっきりと理解できました。また、スタッフの献身的な協力で、充実した会になっていたことが印象に残りました。

歌声喫茶が10 箇所あれば、10 箇所それぞれが違った顔を持っています。会場の違い、スタッフの協力などで企画も代わってくるのでしょう。皆さん工夫して頑張っているなあと思いました。また、一つ違った顔の「歌声喫茶」を紹介できたのではないかと思います。

（乙津：記）

